

一 つぎの文章を読んで、問題に答えましょう。

ヤドカリの仲間には、貝がらにイソギンチャクを付けているものがあります。中には、九つものイソギンチャクを付けていた例も記録されています。

なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらに付けているのでしょうか。このことを調べるために、次のような実験をしました。

まず、おなかをすかせたタコのいる水そうに、イソギンチャクを付けていないヤドカリを放します。タコはすぐにヤドカリをつかまえ、食べてしまいます。

次に、イソギンチャクを付けているヤドカリを入れてみます。タコは、ヤドカリをとらえようとしますが、イソギンチャクにふれそうになると、あわててあしを引っこめてしまいます。

実は、イソギンチャクのしよく手は、何かが付くとはりが飛び出す仕組みになっています。タコや魚はこのことをよく知っています。イソギンチャクに近づこうとはしません。それで、ヤドカリは、イソギンチャクを自分の貝がらにつけて、身を守っているのです。

では、ヤドカリは、石に付いたイソギンチャクを、どうやって自分の貝がらにつけるのでしょうか。ヤドカリが、イソギンチャクのはりでさされることはないのでしょうか。

カナダのロス博士は、ヤドカリとイソギンチャクがどのような様子になっているか、水そうで観察しました。

ヤドカリがいる水そうに、イソギンチャクを入れます。するとヤドカリは、あしでイソギンチャクの体をついたり、はさみで引っぱったりして、イソギンチャクをはがします。そして、かかえるようにして自分の貝がらの上におし付けるのです。イソギンチャクは気持ちよさそうで、はりも飛び出しません。

では、イソギンチャクはヤドカリの貝がらに付くことで、何か利益があるのでしょうか。ヤドカリについていないイソギンチャクは、ほとんど動きません。ですから、えきになる魚やエビが近くにやってくるのを待つしかありません。しかし、ヤドカリに付いていれば、いろいろな場所に移動することができ、その結果、えきをとる機会がふえます。また、ヤドカリに付いていると、ヤドカリの食べのこしをもらうこともできるのです。

さんごしよの美しい海では、いくつものイソギンチャクを付けたヤドカリを見ることが出来ます。ヤドカリとイソギンチャクは、たがいに助け合って生きています。

① 上の文章は、いくつものだん落に分かれていますか。次のうち、正しいものの( )に、○を書きましよう。

- ( ) 十一 ( ) 十二 ( ) 十三

② この文章は、「始め」「中」「終わり」の、三つのまとまりに分けて説明されています。それぞれの分け方について、正しいものの( )に、○を書きましよう。

( )	始め	第一だん落	第三だん落
( )	中	第四だん落	第十一だん落
( )	終わり	第十二だん落	
( )	始め	第一だん落	
( )	中	第二だん落	第十一だん落
( )	終わり	第十二だん落	
( )	始め	第一だん落	第六だん落
( )	中	第七だん落	第十一だん落
( )	終わり	第十二だん落	

③ 第二だん落では「なぜ、ヤドカリは、いくつものイソギンチャクを貝がらにつけているのでしょうか。」という「問い」が書かれています。この「問い」に対する「答え」に当たるだん落はどれですか。正しいものの( )に、○を書きましよう。

- ( ) 第三だん落 ( ) 第四だん落  
( ) 第五だん落 ( ) 第六だん落

二 説明文の学習で使われる用語の言葉と意味を正しく線でおすびましよう。

要約 文章の中にある小さな内容のまとまり

引用 文章の内容を短くまとめること

段落 説明するために本などの文や言葉をそのままぬきだして使うこと

出典 説明するために、例や事実などを使うこと

事例 引いた文などが、どの書物から使ったかを示すこと